

令和6年度児童・生徒体力・運動能力等調査の結果について

報告内容

令和6年度児童・生徒体力・運動能力等調査の結果について報告します。

1 調査概要

- (1) 実施期間 令和6年6月中旬から下旬
(2) 対象 小学校5年生及び中学校2年生
(3) 内容
① 小学校5年生
握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・
20mシャトルラン・50m走・立ち幅とび・ソフトボール投げ
② 中学校2年生
握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・(持久走)・
20mシャトルラン・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げ
※持久走については、選択可能としている。

2 調査結果 青…国・都平均を上回っている 赤…国・都平均を下回っている

種目ごとの単位は、握力(kg)、上体起こし(回)、長座体前屈(cm)、反復横とび(点)、持久走(秒)、20mシャトルラン(回)、50m走(秒)、立ち幅とび(cm)、ソフトボール・ハンドボール投げ(m)で示しております。なお、数値については、小数第二位を四捨五入して表記しております。

(1) 小学校5年生

① 男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
港区平均	16.9	20.7	36.2	42.7	47.5	9.3	154.9	19.8
都平均	16.4	19.6	34.6	40.6	46.7	9.6	150.8	20.4
国平均	16.7	20.0	34.4	42.7	51.2	9.3	156.0	21.9

- ・8種目中4種目で国・都平均を上回っている。
- ・特に、長座体前屈では、19校中11校が国・都平均を上回っている。
- ・ソフトボール投げでは、国平均に比べ2.1ポイント低く、都平均に比べ0.6ポイント低い。19校中13校が国・都平均を下回っている。

② 女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
港区平均	16.4	19.2	40.5	40.5	36.5	9.5	145.9	12.1
都平均	16.1	18.7	38.7	38.8	35.9	9.8	143.9	12.9
国平均	16.5	18.5	37.8	39.9	40.4	9.6	148.7	13.4

- ・8種目中4種目で国・都平均を上回っている。
- ・特に、反復横とびでは、19校中11校が国・都平均を上回っている。
- ・ソフトボール投げでは、国平均に比べ1.3ポイント低く、都平均に比べ0.8ポイント低い。19校中15校が国・都平均を下回っている。

(2) 中学校2年生

① 男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
港区平均	29.9	26.3	43.7	52.3	415.7	77.2	8.3	199.8	20.3
都平均	29.4	25.7	43.0	51.5	423.1	75.5	8.1	198.9	20.6
国平均	30.2	26.6	45.1	53.0	396.5	83.1	7.8	203.8	21.0

- ・ 8種目中2種目で国・都平均を下回っている。
- ・ 50m走では、国平均に比べ0.5ポイント低く、都平均に比べ0.2ポイント低い。10校中7校が国・都平均を下回っている。
- ・ ハンドボール投げでは、国平均に比べ0.7ポイント低く、都平均に比べ0.3ポイント低い。10校中6校が国・都平均を下回っている。

② 女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
港区平均	23.3	21.6	46.6	46.0	320.9	50.1	9.1	168.7	11.6
都平均	23.3	21.2	45.6	45.8	312.8	49.5	9.1	165.6	12.2
国平均	24.0	22.5	47.3	47.9	289.7	56.3	8.8	173.0	13.3

- ・ 8種目中2種目で国・都平均を下回っている。
- ・ 持久走では、国平均に比べ31.2ポイント低く、都平均に比べ8.1ポイント低い。実施している学校6校中2校が国・都平均を下回っている。
- ・ ハンドボール投げでは、国平均に比べ1.7ポイント低く、都平均に比べ0.6ポイント低い。10校中7校が国・都平均を下回っている。

3 考察

子どもの体力・運動能力の低下が指摘される中、令和6年度の調査では、港区の小学校5年生男女において多数の種目で国・都の平均を上回っていることが分かった。この結果から、ボルダリングウォールの活用、区連合行事等、港区学校教育推進計画の重点事業の取組の一つである「健康な体づくり」を推進してきた成果が伺える。

一方で、ボール投げが国・都平均に比べ低い傾向にある。各学校では、「投げ方の指導を重点的に行うこと」や「投げる運動に何度も親しむこと」が必要である。

4 今後に向けて

教育委員会は、投力向上に向け各校が以下の内容を実践するよう取り組ませる。

(1) 体育授業の改善・充実

「投の運動（遊び）」において、姿勢、手足の動かし方、体の向き、投げる角度等、ボールを投げる際のポイントを理解するため、学習者用端末を活用し、自分の動きの質が向上していることを実感できるようにする。また、港区教育研究会と連携し、ゲーム的な要素を取り入れた「投の運動（遊び）」の授業実践を区内に広く伝えていく。

(2) 「一校一取組運動」の実施

調査結果を踏まえ、朝や休み時間等を活用し、白金小や港南小で実施しているスポンジボールを活用したキャッチボールや的あて等、特色ある「一校一取組運動」に取り組み、ボールに触れる機会を十分に確保できるようにする。

(3) スポーツ関係団体、専門家等との連携

運動機会の創出のために、スポーツ関係団体や専門家を外部講師として招聘し、投げ方教室を行うことで、「投げること」への運動意欲を高める。